

第1時の資料(つかむ)

◆私たちの東京都では、どのような自然災害が起こってきたのだろう。

時間的な経過と、空間的な広がりに着目する。

資料 妙正寺川の氾濫



(出典：東京都建設局 HP
「妙正寺川の氾濫による被害」)

資料 東京都の自然災害年表 (参考：東京都建設局
(東京都防災会議地域防災計画風水害編))

年	災害名	主な被災地	被害者数
1923	関東大震災	関東地方	約105,000人
1947	カスリーン台風	東海以北	1930人
1954	とうや丸台風	全国	1761人
1958	狩野川台風	近畿以东	1269人
1959	伊勢湾台風	全国	5098人
1972	台風	全国	447人
1982	台風	全国	439人
1986	伊豆大島噴火	伊豆大島	0人
1993	長雨	山陰以东	117人
2000	三宅島噴火	東京都	1人
2004	台風23号	全国	98人
2011	東日本大震災	東日本	21839人
2013	大雪	関東甲信以北	93人
2013	土砂災害	伊豆大島	40人

【指導上の留意点】

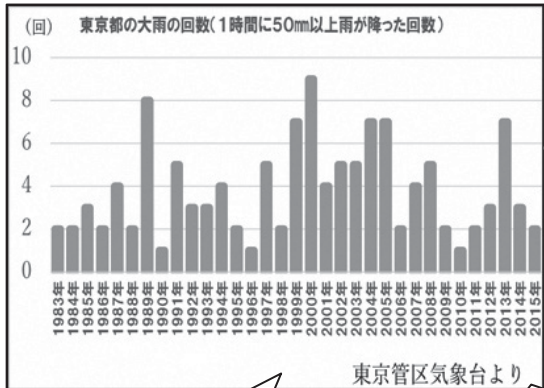
東京都における災害の年表を用いて、災害について調べる。約100年間に大雨、台風、火山噴火、地震など様々な災害が起こっていることを捉えられるようにする。そして、発生場所を東京都の白地図にプロットし、空間的な広がりからも捉えられるようにする。

第3時の資料(つかむ)

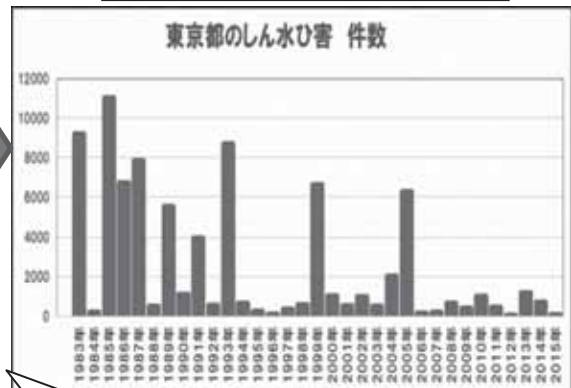
◆水害の被害は、どのように変わっているのだろう。
(参考：東京都建設局HP「過去の被害記録～浸水実績図～」)

浸水被害を時間の経過に着目して捉える。

資料 東京都の大雨の回数



資料 東京都の浸水被害件数



大雨の回数が少しずつ増えているよ。

そうすると、浸水被害も増えているのではないかな。

でも、浸水被害は年々減っている。

どうして雨がたくさん降っているのに、水害は減っているのだろうか。

【指導上の留意点】

大雨発生率のグラフから、年々大雨が増えていることを共通理解した上で、浸水被害のグラフを提示して比べる。そこで大雨は増えているのに被害が減っているのはなぜなのか疑問を集約して学習問題をつくる。

【学習問題】

水害からくらしを守るために、人々はどのような取り組みをしているのだろう。

第8時の資料（調べる）

◆東京都や杉並区では、水害が起きたときに、どのような備えをしているのだろうか。

資料 水害に備える都や区の取組



東京都と杉並区の合同訓練の様子

（出典：杉並区役所杉並区HP
～地域の消防団や消防署による救助訓練東京都と杉並区の合同訓練～）



消防団の活動

（出典：杉並区役所杉並区HP

～地域の消防団や消防署による救助訓練～）

協力して会議や訓練を行っている姿について、人々の相互関係に着目して捉える。

第10時の資料（まとめる）

○いろいろな人々の協力で初めて自分たちのくらしが成り立つ。

○人々の協力。

地下調整池の人々の協力。

地下調整池の人々は川の水の流入や排水の操作管理をし、川の水位が上がらないようにか

んしている。



○家庭の地下の利用。

水害からくらしを守るために家庭の地下を利用し

たものがある。これはなまった雨水を一か所に集め、ゆっくりと土の中にしみこませていく。



○公園の利用。

公園の広さや公園がたくさんあることを利用して、地下に一時的に水をためて、自分たちのくらしを守っている。公園を利用して、一時的に水をためておくところを公園貯留という。



○考えたこと。

自分たちのくらしを守ってくれている人たちも、その人たちの暮らしを守らなければならないから、人々は助け合って水害からくらしを守っているのかなと考えた。

普段から気を付けて、用意をしていきたい。

人々が自然も活用しながら水害から暮らしを守る。

【指導上の留意点】

学習問題に対する自分の考えを「パンフレット」の巻末にまとめ、それを基に話し合うことでそれぞれが考えをより深められるようにする。

第12時の資料（いかす）

◆自分たちにはどのようなことができるだろう。

資料 都市型水害の様子



浅草周辺が浸水したイメージ映像

（出典：国土交通省荒川下流河川事務所「荒川氾濫DVDより」）

都会でも水害にあうことがあるんだ。

大雨のときは、すぐに情報を得て、避難に備えよう。

【指導上の留意点】

水害が起こっても安全に避難できるよう日頃からどのような備えをしておけばいいのか。大雨のときは、どのような行動をとればいいのか、今までの学習を想起させ、考える。

小単元名	受け継がれる祭り～武蔵府中・くらやみ祭～	配当10時間	内容(4)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	----------------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

東京都で受け継がれている文化財や年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、都内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、東京都の文化財や年中行事は地域の人々が受け継いできたことや、地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学んだことを基に、自分たちにできることなどを考えるなど、地域に対する誇りを持ち、地域の伝統や文化の継承に協力していこうとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 歴史的背景や現在に至るまでの経過、保存や継承のための取組について、見学・調査したり地図帳などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、東京都内の文化財や年中行事の様子を理解している。 ② 調べて分かったことを文章や年表などにまとめて、都内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。	① 歴史的背景や現在に至るまでの経過、保存や継承のための取組などに着目して、問いを見出し、東京都内の文化財や年中行事の様子について考え、表現している。 ② 文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と、地域の人々の願いを関連付け、文化財や年中行事を受け継ぎ保存していることの意味を考えたり、自分たちにできることを選択・判断したりして、適切に表現している。	① 文化財や年中行事について、予想し学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② よりよい社会を考え、学習したことを基に、文化財や年中行事の継承していくために、東京都民の一人として自分たちにできることを考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、主として「県内の文化財や年中行事の様子」に関わる内容である。都内の主な文化財や年中行事を大まかに分かるようにすることが求められている。単元のはじめに、東京都の地図などを活用し、都内の文化財や年中行事のうち代表的なものを取り上げ、その位置と簡単な概要を理解することができるようにしている。
- ②そして、都内の文化財や年中行事の中から具体的な事例を取り上げ、その歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などを調べ、保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、保存や継承することの意味を考えることが重要である。

(2) 教材や資料の工夫

- ①本小単元では東京都の代表的な文化財・年中行事として「武蔵府中くらやみ祭(府中市)」を取り上げる。府中市は古くは武蔵国の国府が置かれていた地であり、この祭もその国府で行われた国府祭を由来とするといわれ、東京都の無形民俗文化財として指定されている。また、現在に受け継がれている背景には、人々の思いや努力があり、文化財や年中行事等を未来に受け継いでいこうとする意欲を高める上でも有効である。
- ②「つかむ」段階で、参加者が70万人もあり、永い歴史をもつ祭りであることに注目させ、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり、時期や時間の経過)を働かせながら、武蔵国一之宮である「大国魂神社」と関東一円の神社とのつながり、祭りを受け継いできた様々な人々の働きや願い等について、調べたり考えたりできるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①具体的な事例を調べていく上で、社会的事象の見方・考え方を働かせることができるように、「どのような場所にあるのか」「いつごろ、どのように始まったのか」「祭りを受け継ぐために、どのような人々が、どのような取組をしているのか」などの問いを設ける。
- ②単元の終末に「いかす」段階を設定し、学んだことを生かし、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにどのようなことができるのかを考え、選択・判断する活動を設定する。

3 小単元の指導計画（10時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①東京都の代表的な文化財・年中行事について調べる。	○地域の文化財や年中行事を振り返る。 ◆東京都にはどのような文化財や年中行事があるのだろうか。 ○国や都の指定している文化財を調べ、東京都の白地図にまとめ、その位置を確認する。 ・都内には多くの有形・無形文化財があるんだ。	◎東京都の文化財一覧表 ◎東京都の白地図 ◎文化財や年中行事の写真 □見たり、参加したりした経験なども発表させる。【知①】
	②くらやみ祭について知り、学習問題をつくる。	◆武蔵府中・くらやみ祭は、どのようなお祭りなのだろうか。 ○くらやみ祭の様子を調べて、分かったことや疑問を話し合い、学習問題をつくる。 ・くらやみ祭はとても長い歴史があるようだ。なぜ、現在でも多くの人たちが見に来ているのだろうか。	◎くらやみ祭の写真、参加者数 □参加者数が70万人であることに注目させる。 【思①】
	③学習問題に対する予想、学習計画を立てる。	◆くらやみ祭が長く続いてきたのはどのような理由があるのだろうか。 ○予想を話し合い、調べる計画を立てる。 ・誰かが何かに取り組んでいるからではないか。 ・地域の人にとって、とても大切なものなのではないか。	◎くらやみ祭の年表 □予想を分類しまとめ、問いの形で調べる計画を立てる。 □年表を提示し、予想を考える手がかりとする。【態①】
調 べ る	④くらやみ祭の歴史について調べる。	◆くらやみ祭はいつごろ、どのようにして始まったのだろうか。 ○年表や資料でくらやみ祭の歴史を調べる。 ・都内でも長い歴史のある祭なんだ。	◎くらやみ祭の略年表 ◎国府についての資料 □調べたことを年表の形式でまとめさせる。【知①】
	⑤くらやみ祭の内容について調べる。	◆くらやみ祭はどのような祭なのだろうか。 ○祭の写真や資料から祭の概要を調べる。 ・神輿や大きな太鼓がすごい。長い期間行われるんだ。	◎くらやみ祭の写真、祭の概要(大国魂神社のHP) 【知①】
	⑥くらやみ祭を受け継いできた人たちについて調べる。	◆どのような人によって受け継がれているのだろうか。 ○写真などから多くの人に関わっていることを知る。 ・大きな祭りだから役割が分かれていて、いろいろな立場の人が関わっていることが分かった。 ・遠くからたくさんの人々も参加したり見物したりしている。	◎祭に関わる人の写真 ◎祭の参加者の表 □写真の場面や服装に注目させる。 【知①】
	⑦受け継いできた人たちの苦労や思いを考える。	◆受け継いできた人たちにはどのような苦労や思いがあるのだろうか。 ○大国魂神社の人、神輿を担ぐ人のインタビュー資料から祭を受け継いできた人たちの思いを考える。	◎祭の参加者のインタビュー資料 □立場の違いで苦労や思いが違う部分と同じ部分に着目させる。 【思①】
ま と め る	⑧調べたことを基に学習問題に対して考えをまとめ、話し合う。	◆くらやみ祭は、どのようにして今に受け継がれてきたのだろうか。 ○今までの学習から理由を年表にまとめる。 ○まとめた年表をもとに学習問題について話し合う。 ・くらやみ祭は東京でも長い歴史のある祭で、地域の発展と人々の幸せへの願いが込められ、今でも多くの人たちに大切にされている。神社や地域の人たちの思いや努力があったから、今に受け継がれている。	□年表形式のまとめに自分の考えを記入し発表させる。 【思②】【知②】
い か す	⑨⑩文化財を守るために自分たちにはどんなことができるか考える。	◆文化財や年中行事を大切にするために、自分たちにどのようなことができるだろうか。 ○くらやみ祭りの課題やそれへの取組を調べることを通して、年中行事や文化財を受け継ぐために、自分たちができることを話し合い、文章にまとめる。 ・文化財に関心をもつことが大事だと思う。知らないとい何も関われない。 ・祭などに参加する機会があれば参加してみたい。	□くらやみ祭が現在抱えている課題に気付かせ、「今までの学習をもとに自分たちができることを考えさせる。将来できること」という視点も尊重する。 【思②】【態②】

小単元名	届けよう命の水～玉川兄弟と玉川上水の開発～	配当10時間	内容(4)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-----------------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

地域の発展に尽くした玉川兄弟らについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、先人の働きと現代の地域の人々の生活を関連付け、地域社会の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした玉川兄弟らの働きを理解している。 ②調べたことを年表や思考ツール、文などにまとめ、玉川兄弟らは、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。	①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、玉川上水開削について考え、表現している。 ②玉川兄弟らの業績と、地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて先人の働きを考え、適切に表現している。	①地域の発展に尽くした玉川兄弟らの働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②玉川兄弟らの働きと、玉川上水のその後の様子などを基に、現代の地域の人々の生活を関連付け、これからの地域社会の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」について関わる内容である。内容の取扱いでは、開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から、選択して取り上げるとされている。本小単元では、開発「玉川兄弟と玉川上水の開発」を取り上げる。水不足に悩まされることなく、健康に生活したいという願いは昔も今も変わらない。玉川兄弟らの苦心や努力により、玉川上水の開削が進められ、水不足が解消し江戸の人々の生活が向上するとともに、多くの分水がつくられ武蔵野台地が発展したこと、さらには、現在の上水道のもとになり、今も地域の人々の憩いの場としての役割も担っていることなど、先人の働きについて自分たちの願いや、現在の人々の生活ともつながりを意識しながら学習を展開できると考える。

(2) 教材や資料の工夫

- ①江戸時代、江戸の人口急増による水不足に対応するために、玉川兄弟らは、どのようにして上水を造ったのかという問いをもつことができるようにする。そこで、現存する玉川上水や分水路の様子を取り上げ、自分たちの生活とのつながりや時間の経過に着目しながら、玉川兄弟らの業績について調べられるようにする。また、東西にのびる水路や江戸市中に網の目のように広がる配水路、各地に広がる分水路など、空間的な広がりにも着目して、調べられるようにする。
- ②玉川上水はその後、荒れ果てた時期があったものの人々の協力により、現在もなお一部が水道施設としての役割を果たしながら、地域の人々の憩いの場や環境保全としての役割も担っているという事実を「いかす」段階で取り上げ、地域社会の発展について考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①自分たちの地域には人の手で造られた水路があることや、今の水道のもとになっているものが残されていることなどをすることで、玉川兄弟や玉川上水を心理的、地理的に身近に捉え、主体的に学習問題を考えたり予想や学習計画を立てたりできるようにする。
- ②玉川兄弟らの業績に着目し、玉川兄弟や当時の江戸の人々の立場に立って気持ちを考え、交流し合う活動を設定し、業績と生活の向上の関連について具体的に考えられるようにする。
- ③「いかす」段階を設定し、過去から現在に至るまで、水道事業はつながっていることを知り、地域社会の一員として、これからの地域の在り方について考えようとする態度を養う。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①都内を流れる玉川上水や身近な分水路について観察し、関心をもち、問いを見出す。	◆玉川上水(分水を含む)とは、どのようなものなのだろう。 ○地域にある用水路を観察して、気付いたことを出し合い用水の開発について関心をもつ。 ・人が掘ったなんて信じられない。とても大変そうだ。 ・私たちの地域には、300年以上前から今の水道の基になる玉川上水や分水路があった。 ・どこを流れているのだろう。なぜ、掘ったのだろう。	□「今の水道の基になっているものを見てみよう。」などと投げかけ、観察したり、写真を示したりする。 ◎玉川上水や分水路の様子(観察、写真・動画) 【思①】
	②江戸のまちの人々のくらしの様子を調べ、玉川上水の開発について追究する学習問題を作って予想し、それを確かめる学習計画を立てる	◆玉川上水は誰が、何のために、どのようにして造ったのだろう。 ○江戸の人口急増の様子やそれに伴う課題について調べる。 ・人口が急増したことで水不足になったのではないか。 ○玉川上水のコースや長さについて調べ、玉川兄弟らの業績について、学習問題をつくる。 ・羽村から千代田区に向かい約43km。 ・機械のない時代に8か月で掘ったのはすごい。 ・どんな道具を使ったのか。なぜこのコースにしたのか。	◎玉川上水の水路(地図) ◎江戸の人口の変化 ◎当時の江戸の様子(想像図) □学習問題の予想を立てる際、後の資料の一部をヒントとして提示する。【思①】 ◎東京都の地形図、道具や、木樋、ますの写真
調べ	③④⑤⑥流路の決定の仕方や工事の方法、工事の難点の克服などについて、郷土資料館を見学したり資料を活用したりして調べる。	◆玉川兄弟たちは、難しい工事を成功させるために、どのような工夫をしたのだろう。 ○学習計画に基づき、資料を活用して調べる。 ・水路の決定の仕方・工事の進め方・配水の工夫など ○調べたことを基に人々の願いや気持ちを考え、話し合う。 ・待ちに待った水がやってきて嬉しい。 ・これで作物を育てることができ、生活も楽になる。	◎東京都の地形図、工事に使った道具や木樋・ます等の写真、羽村取水堰の作りやすさ、立地条件 □調べたことを年表やマップに整理していく。 □玉川兄弟や江戸の人々の気持ちを吹き出しに書く。 【知①】【思①】
	⑦⑧玉川上水の開通後に武蔵野台地が開かれた分水と田畑との関係について、資料を活用したり地域の人の話を聞いたりして調べる。	○玉川上水が分水されたことに気付く。 ・水路が枝分かれしている。 ◆分水はどのように広がり、武蔵野の人々の生活はどうなったのだろう。 ○分水による生活の変化について調べる。 ・農業ができるようになった。 ・人々が武蔵野でも暮らすようになった。	◎分水を示す地図 □「玉川上水ができたことで、武蔵野台地はどのように変わったのだろう」と質問し、人々のくらしの変化について考えることができるようにする。 【知①】【思①】
まとめる	⑨玉川上水の開発や、玉川兄弟の苦心や苦勞について思考ツールにまとめ、先人の働きの意味について考える。	◆調べたことを基に玉川上水にキャッチフレーズを付けるなら、どのような言葉で表すことができるだろう。 ○根拠となる事実を思考ツールにまとめ、玉川上水にキャッチフレーズを付ける。 ・命の水玉川上水 ・生活を変えた玉川上水 ・人々を救った玉川上水 ○現在の水道事業と比べ共通点について話し合う。 ・きれいな水を作ろうとしている。 ・自然の川を利用。 ・他地域の協力。 ・広く多くの人々に届ける工夫。 ・水を管理する人。	◎これまで学んできたノート記録や資料など □玉川上水の価値を考える手だてとして思考ツールを提示する。(例：ピラミッドチャート) 【知②】 □現在と比べる発問を通して、先人の働きの意味について考えることができるようにする。 【思②】
いかす	⑩玉川上水の開発から現在までの移り変わりを調べ、その地域における保存・継の取組について考える。	◆その後、玉川上水はどうなっていったのだろう。 ○浄水場の建設により荒れた後、地域の人々の運動により今も自分たちの生活を豊かにする役割を担っていることについて考え、話し合う。 ・今では人々の憩いの場となり、緑豊かで環境保全の役割も果たしている。これからも大切にしていきたい。	◎玉川上水のあゆみ年表 ◎荒廃した玉川上水の写真 ◎清流復活した玉川上水の写真 【態②】

小単元名	東京のまちを築いた人 ～後藤新平～	配当10時間	内容(4)アの(イ)及び(ウ)とイの(イ)
------	-------------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

関東大震災から東京のまちを復興させた後藤新平の業績について、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして年表などにまとめ、後藤新平らの業績を捉え、後藤新平らの働きを考え、表現することを通して、よりよい東京のまちを目指し、様々な苦心や努力により当時の人々の生活向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、先人の働きと現代の地域の人々の生活を関連付け、地域社会の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①復興事業の課題や当時の人々の願いなどについて、見学・調査したり地図や年表などの資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取り、後藤新平らの働きについて理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、後藤新平らが様々な苦心や努力を重ね復興を進め、それにより当時の生活が向上し、よりよい東京が築かれたことを理解している。	①復興事業の課題や当時の人々の願いなどに着目して、問いを見出し、震災からの復興していく様子について考え、表現している。 ②後藤新平の業績と、当時の人々の願い、復興の様子を関連付けて、後藤らの働きを考え、適切に表現している。	①後藤新平らの働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②後藤新平らの業績と、現在の環状道路の建造などを基に、先人の働きと現代の地域の人々の生活を関連付け、東京都民の一人として、これからの地域社会の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」に関わる内容である。内容の取扱いでは、開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から、選択して取り上げるとされている。本小単元では、「後藤新平と関東大震災からの復興」を取り上げる。後藤新平は、当時内務大臣を務め、関東大震災により壊滅的な被害を受けた東京のまちを、元に戻す復旧ではなく、よりよい東京を創る「復興」を目指し、その事業を中心になって進めた人物である。大地震は、現代においても近い将来起こると予測され、その対応は大きな課題の一つでもある。また、復興小学校や隅田川にかかる橋など、後藤の業績は今の東京にも残るとともに、震災に強いまちをつくらうとした後藤の考えは、今もなお受け継がれ、まちづくりが進められている。このように、児童自身が自分の問題として関東大震災からの復興を捉え、後藤らの働きについて自分たちの願いや、現在の人々の生活ともつながりを意識しながら主体的に学習を展開できると考える。

(2) 教材や資料の工夫について

①後藤新平らが関東大震災の被害から、どのような東京を目指し、どのようにして復興を成し遂げていったのか、問いをもてるように、まず、関東大震災の被害の様子や当時の人々の思いから、その当時の社会の課題を捉えられるようする。そして、震災前と復興後の東京の様子や復興の期間などを提示し、社会的事象の見方・考え方（位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、比較）を働かせながら、どのようなまちを目指して復興が進められたのか、また、短期間で復興を成し遂げるまでどのような苦労があったのか、学習問題をつくることができるようにする。
 ②震災に強く衛生で近代的な都市づくりを目指した後藤の考えは、環状道路や広い道路の建造、耐火建築の建造など、今もなお、東京のまちづくりに受け継がれている。この事実を「いかす」段階で児童に提示し、実際に震災に強いまちづくりを進めている行政の方の話なども取り上げながら、地域社会の発展について考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①後藤新平の業績を心理的、地理的に身近に捉え、主体的に学習問題を追究できるように、地域の復興小学校や復興公園、橋や道路など復興時の建造物などを積極的に取り上げる。遠足や社会科見学等と関連を図り、見学をすることも考えられる。あわせて、自分たちの地域における関東大震災の被害を取り上げることも効果的である。
 ②震災の被害にあった人々や後藤新平や復興に携わる人々の立場に立って気持ちを考え、交流し合う活動を設定し、業績と生活の向上の関連について具体的に考えられるようにする。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	(◆) 主な問いと (○) 主な学習活動 予想される児童の反応 (・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①関東大震災により、東京が大きな被害にあったことに関心をもち、問いを見出す。	○熊本県の大地震が起きた時の様子について話し合う。 ◆関東大震災では、どのような被害があったのだろうか。 ○関東大震災の被害の様子を調べ、震災後の市民の気持ちや生活の様子、願いを吹き出しに書き、話し合う。 ・今後の生活への不安 ・地震に対する恐怖や不安	□ニュース動画から被害の広がりを捉えさせる。 ◎関東大震災の写真、被害者数グラフ、火災の広がり、文書資料 【思①】
	②震災後と復興後の写真を比較し、気付いたことを話し合う中で、疑問に思ったことから学習問題を立てる。	◆震災後の焼け野原からどのように復興したのだろうか。 ○震災後と復興後の写真を比較し、どのように復興したのか、気付いたことを話し合う。 ・道路が広くて、緑が豊か。 ・建物や橋が立派になった。 ○後藤新平が中心となり復興を進めたことを知り、疑問に思ったことから学習問題を立てる。 後藤新平は、どのようにして東京のまちを復興させたのだろうか。	□まちの変化に気付かせる。 ◎復興後のまちの写真 ◎復興年表、後藤新平の写真 □後藤新平を中心にした人々の協力に気付かせる。 【思①】
	③学習問題をもとに、学習計画を立てる。	◆後藤新平は、東京のまちを復興させるために、どのようなことをしたのだろうか。 ○学習問題に対しての予想をし、学習計画を立てる。 ・道路、橋、学校の改修、住宅の整備 ・どのような東京を目指したのか	◎後藤新平の人物年表、人物紹介映像 ◎復興計画会議の写真 ◎ピアードからの手紙 □予想を分類し、学習計画を立てる。 【態①】
調 べ る	④道路整備、区画整理に当たった後藤新平や先人たちの働きについて調べる。	◆後藤新平は、どのような思いで道路整備を行ったのだろうか。 ○震災前と復興後の道路の写真を比較し、復興の様子を調べる。 ○区画整理のための移転命令書を読み、多くの反対にあったことを捉え、後藤新平の苦労について考えたことを話し合う。 ○あきらめずに道路を整備しようとした後藤新平の思いを考える。 ・火災の拡大を防ぐには道路を広くしなければならぬ。	◎震災前後の道路の写真、区画整理の地図等、地域や反対者の話、東京市長の言葉、道路整備復興の地図 □思いを吹き出しに書く。 【知①】
	⑤橋を造り直すに当たった後藤新平や先人たちの働きについて調べる。	◆後藤新平はどのような思いで橋を造ったのだろうか。 ○資料から、橋の復興について調べる。・材料 ・デザイン ○後藤新平はどんな思いで橋をつくり直したのか考える。 ・大きな地震や火事がきても、丈夫で壊れないもの、外国にも負けない美しい景観になるようにデザインしよう。	◎橋の被害、逃げ遅れた人の文章資料、橋や復興大公園・浜町公園の写真、太田圓三の言葉、橋の復興地図 □吹き出しに書く。 【知①】
	⑥復興小学校や公園をつくるに当たった後藤新平や先人の働きと復興の様子について調べる。	◆後藤新平はどのような思いで復興小学校を造ったのだろうか。 ○復興小学校の様子について調べ、後藤新平は、どのような学校をつくらうとしていたのかを考えて吹き出しに書き、話し合う。 ・地震にも負けない学校、衛生的な学校	◎震災前の小学校の写真、バラックの授業風景、小学校5年生の作文、復興小学校の写真、佐野利器の言葉 【知①】
	⑦下水道や住居を整備するにあたっての後藤新平や先人たちの働きについて調べる。	◆後藤新平はどのような思いで下水道などを整えたのだろうか。 ○震災前の洪水や、震災後の下水道や道路・住宅整備の様子を調べ、人々の生活がどう変わったか話し合う。 ・道路とあわせて下水道を整備 ・衛生的な生活 ○後藤新平の思いについて考え、話し合う。	◎下水道整備前の写真、コレラ患者数の推移、下水道整備に関する文章資料、東京都下水道の経路、アパートの写真や分布図 【知①】【思①】
ま と め る	⑧関東大震災の復興における後藤新平や先人の働きについて理解し、学習問題についてまとめる。	◆後藤新平は、どのようにして東京のまちを復興させたのだろうか。 ○調べたことをもとに、学習問題についてまとめる。 ・関東大震災から7年、反対もあったが、後藤新平は協力し苦労を重ねてそれを乗り越え、市民のために、地震に強く衛生的で美しいよりよい東京のまちをつくった。 ○復興への道のりをキャッチフレーズにまとめ、話し合う。	◎後藤新平の言葉 □調べたことや、後藤の気持ちなどをもとに、学習問題について考えたり、キャッチフレーズをまとめたりする。 【思②】【知②】
い か す	⑨後藤新平の考えと現在の東京のまちづくりを比べ、これからの東京のまちについて考える。	◆今は、どのようなまちづくりが進められているのだろうか。 ○三環状道路について調べ、後藤新平の道路計画と比べ、話し合う。 ・今も、後藤の考えが受け継がれている。 ○現在の東京都のまちづくりを行っている方の話を聞く。 ○これからの東京のまちについて考え、話し合う。	◎三環状道路、都庁の方の話、永田秀次郎の言葉 □後藤新平の考えと現在の東京のまちづくりを比較・関連付けて考える。 【思②】
	⑩後藤新平に手紙を書き、これからの東京のまちについて自分にできることを考える。	◆よりよい東京をつくるために、自分に何ができるだろうか。 ○これからの東京や、自分にできることを後藤新平に宛てた手紙にまとめ、交流し合い、考えを深める。 ・50年、100年先を見据え、みんなが住みやすく便利なまちにできるように、少しでも協力したい。	□これまでの学習を振り返りながら考えをまとめさせる。 【態②】

小単元名	病とたたかった人々～伊東玄朴らと種痘所～	配当10時間	内容(4)アの(イ)及び(ロ)とイの(イ)
------	----------------------	--------	-----------------------

<主として「歴史と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

天然痘予防に尽力した伊東玄朴たちや種痘所の業績について、当時の人々の願いに着目して、見学・調査したり地図などの資料を調べたりして年表などにまとめ、伊東玄朴らの業績を捉え、伊東玄朴らと種痘所の果たした役割について考え、表現することを通して、伊東玄朴らは様々な苦心や努力を重ねて天然痘の予防を進め、当時の生活の向上に大きく貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、先人の働きと現代の地域の人々の健康的な生活を関連付け、地域社会の発展について考えようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 天然痘の流行や江戸の人々の願いなどについて、見学・調査したり地図や年表などの資料を活用して調べて、必要な情報を集め、読み取り、伊東玄朴らの働きについて理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、伊東玄朴らは様々な苦心や努力によって天然痘の予防を進め、当時の生活の向上に大きく貢献したことを理解している。	① 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見出し、伊東玄朴たちや種痘所の業績について考え、表現している。 ② 伊東玄朴たちや種痘所の業績と、地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて先人の働きや願いを考え、適切に表現している。	① 伊東玄朴たちや種痘所の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 先人の働きと、種痘所のその後の様子などを基に、現代の地域の人々の生活を関連付け、東京都民の一人として、これからの地域社会の発展について考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

① 本小単元は、内容(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」に関わる内容である。内容の取扱いでは、開発、教育、医療、文化、産業などの面で地域の発展や技術の開発に尽くした先人の具体的事例の中から、選択して取り上げるとされている。本小単元では、医療「伊東玄朴らと種痘所」を取り上げる。天然痘を克服したい、健康に生活したいという願いは昔も今も変わらない。伊東玄朴らや種痘所の苦心や努力により、天然痘の予防が進められ、天然痘罹患者が減少し、江戸の人々の生活が向上したこと、そして、種痘所跡は東京大学医学部となり、今も医療向上の努力が進められていることなど、先人の働きについて自分たちの願いや、現在の人々の生活とのつながりを意識しながら学習を展開できると考える。

(2) 教材や資料の工夫について

① 「つかむ」段階で、天然痘の被害の様子、各地に現存する疱瘡神社、天然痘の根絶を取り上げる。「江戸時代末期という時代に、恐ろしい感染症であった天然痘の蔓延を防ぐために、伊東玄朴らは、どのように予防策を広めていったのだろうか」という問いをもたせ、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせながら、伊東玄朴らの業績、自分たちの生活とのつながりについて、調べたり考えたりできるようにする。
 ② 種痘所跡では、その後も現在に至るまで、病気を克服しようとする取組が日夜続いているという事実を取り上げ、地域社会の発展について考えられるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

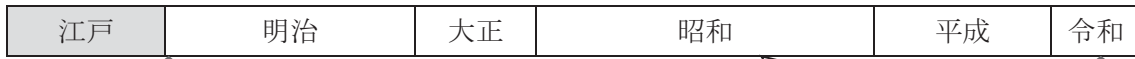
① 自分たちの身のまわりには様々な病気があること、これまでに根絶された病気もあることや、東京各地に今でも疱瘡神社があることなどを知ること、より学習内容を心理的、地理的に身近に捉え、主体的に学習問題を考えたり予想や学習計画を立てたりできるようにする。
 ② 伊東玄朴らの業績に着目し、伊東玄朴や当時の江戸の人々の立場に立って気持ちを考え、交流し合う活動を設定し、業績と生活の向上の関連について具体的に考えられるようにする。
 ③ 「調べる」段階の終わりに過去から現在に至るまで、医療の向上はつながっていることをつかませるため、種痘所がその後どのようになっていたかを調べることにより、これからの地域の発展について、地域社会の一員として考えようとする態度を養う。

3 小単元の指導計画（10時間扱い）

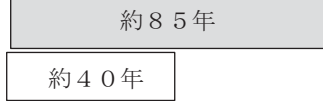
過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①江戸時代の人々の生活の様子や病気の被害を知る。	○自分たちの生活と病気について振り返る。 ◆江戸時代の人々の生活は、どのようなものなのだろう。 ○江戸時代の生活や天然痘の様子について調べる。 ・医療も発達しておらず、病気で亡くなる人も多かった。 ・天然痘は多くの命を奪う病として恐れられていた。	◎江戸時代の病気の様子 ◎江戸時代病気番付 ◎天然痘資料 【知①】
	②天然痘の被害について調べ、学習問題をつくる。	○牛種痘に対する当時の人々の反応と天然痘患者の推移を知る。 ◆なぜ、牛種痘は受け入れられなかったのに天然痘患者が減っているのだろう。 ○天然痘が根絶されていることを調べ、伊東玄朴らの取組について、学習問題をつくる。	◎牛種痘資料 ◎天然痘流行年や死者数の表 ◎伊東玄朴写真 【思①】
	伊東玄朴たちは、天然痘から江戸の町の人々をどのようにして救ったのだろう。		
	③学習問題に対する予想をし、学習計画を立てる。	◆伊東玄朴たちは、天然痘を防ぐためにどのようなことをしたのだろう。 ○自分たちの生活経験と結び付けながら、どのような取組をしたのかを予想し、調べる計画を立てる。	□出てきた予想を分類し、問いの形で学習計画を立てる 【態①】
調 べ る	④牛種痘が江戸の人々に広まらなかった理由について調べる。	◆なぜ牛種痘はなかなか広まらなかったのだろう。 ○天然痘予防に効果のある牛種痘が、漢方医の反対や迷信などにより江戸の町には広まらなかったことを調べる。	◎牛種痘が広まらなかった理由 □玄朴の気持ちを考える。 【知①】
	⑤⑥種痘所を開設した伊東玄朴について、その働きや苦心について調べる。	◆伊東玄朴たちは、どのように牛種痘を広めたのだろう。 ○伊東玄朴の人物年表を中心に、牛種痘を広めていった様子について調べる。 ・種痘法は、当時の医者から反発されたが、将軍に認めてもらった。 ・仲間と協力して、象先堂やお玉が池種痘所をつくった。 ・人々が恐れていた種痘を根気よく続けた。	◎伊東玄朴の人物年表 ◎象先堂や種痘所があった場所を示す地図 □玄朴や江戸の人々の気持ちを考える。 【知①】
	⑦種痘が東京各地に広がり、人々の生活が変わってきた様子を調べる。	◆種痘は、どのように人々に広まっていったのだろう。 ○象先堂や種痘所で学んだ医師たちが、多摩地区などで種痘を広めていった様子について調べ、話し合う。 ・種痘所で学んだ医師が多摩地区で種痘を行っている。 ・その医師の所に近隣から人々が集まってきている。 ・種痘が広まり、かかる人や亡くなる人が減っている。	◎痲瘡神社分布図 ◎種痘を施す医者の居住地と患者の居住地地図 ◎天然痘罹患者死者数グラフ □医師や多摩地区の人々の気持ちを考える。 【知①】
	⑧種痘所のその後を調べ、様々な病気の治療法が研究されてきたことを調べる。	◆その後、種痘所はどうなっていったのだろう。 ○種痘所はその後、東大医学部の礎となり現在でも、治療や研究が行われていることを知り、自分たちの生活が絶えず向上してきたことを考え、話し合う。 ・火事で焼けてしまったが、寄付が集まり建て直した。 ・その後、東京大学医学部になり、たくさんの医者や研究者が、病気の様々な研究や治療法を考えてきた。 ・自分たちの生活にもつながっていることが分かった。	◎種痘所のその後の年表 ◎東京大学医学部出身者の業績(例：北里柴三郎、志賀潔など) 【知①】
ま と め る	⑨⑩種痘の普及によって、人々の生活が向上したことを理解し、学習問題やこれからの社会の発展について考えることができる。	◆種痘が広まり人々の生活の様子はどう変わったのだろう。 ○種痘所や天然痘のその後の様子について調べる。 ○伊藤玄朴たちの働きについて話し合う。 ○学習問題に対する自分の考えを、人々の願いと関連付けながら、玄朴への手紙にまとめる。 ・玄朴先生や先生たちは、天然痘を予防するため、反対や人々の古い考えに負けずに努力を積み重ね牛種痘を広め、そのおかげで、江戸の人々は健康な生活を送れるようになっていった。そして、種痘所が東大医学部になり現在でも病気の研究が続いている。自分たちの健康な暮らしともつながっていることが分かった。	◎その後の天然痘の様子 □これまでの授業で書いてきた玄朴たちや、当時の人々の気持ちをもとに、学習問題やこれからの社会の発展について考える。 【知②】【思②】【態②】

第 1 時の資料 (つかむ)

資料 江戸時代から平成までの等尺年表と江戸時代と平成の平均寿命の比較図



- 現代の人々の平均寿命
- 江戸の人々の平均寿命



- 今から 150 年くらい前のことを学習するんだね。
- 江戸の人々は寿命が短い。どうしてだろう。

◆江戸の人々は、どのように天然痘とたたかったのだろう。



資料 疱瘡神社 (小金井市)



資料 源為朝 浮世絵
出典: Science Window



資料 天然痘対策の絵
出典: 静岡みきのくち保存研究会HP

江戸時代の人々の平均寿命や人々の対策、当時の人々の願いと自分たちとの共通点に着目する。

- 天然痘は恐ろしい病気だけど、治療法や予防法がない時は、神様に祈るしかなかった。
- 効かないかもしれないけど、今でも病気の時、同じような気持ちになるよ。

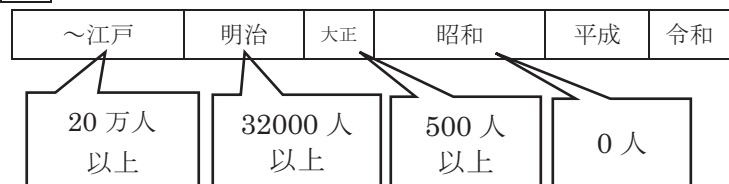
第 2 時の資料 (つかむ)

◆分かったことや考えたことを話し合い、学習問題を立てよう。



自分だったら牛種痘をうつ？うつさない？
(名札で自分がどちらか意思表示)

資料 天然痘で亡くなった数推移 (年間) …等尺年表活用



時間の経過とともに、天然痘が減少していること、そこに伊東玄朴が尽力していることに着目する。



資料 伊東玄朴肖像画

(出典: Wikipedia)

- どうして天然痘にかかる患者は 0 人になったのだろう。
- 伊東玄朴は、天然痘から江戸の人々を守るためにどのようなことをしたのだろう。

【学習問題】

伊東玄朴たちは、天然痘から江戸の人々をどのように救ったのだろう。

第4・5時の資料（調べる）

◆牛種痘はなぜ江戸の町に広まらなかったのだろうか。ふきだしにまとめよう。

◆伊東玄朴は、牛種痘をどのように広めたのだろうか。年表から調べよう。

牛種痘が広がらなかった理由

- ・牛種痘を打つと牛になるという話を信じる人がいた。
- ・これまでの治療法にこだわる医師が反対をした。
- ・日本に伝わっていなかった。



- ・天然痘にきく注射が届いたのに、打てないなんて…。
- ・どうすれば、江戸の人たちにも牛種痘を打てるだろう。
- ・みんなの命を救

- ・勉強するための学校を作っている。
- ・まずは、信頼してもらうことが大切だと考えていて、自分の孫にもうっている。
- ・長い時間がかかっている。

伊東玄朴がいつどのようなことに取り組んだかに着目する。

第7時の資料（調べる）

◆牛種痘は、どのように人々に広まっていったのだろうか。

資料 疱瘡神社分布図（平成30年11月までに確認できたもの）



- ・東京中に疱瘡神社があることが分かる。
- ・自分の住んでいる地域にも疱瘡神社があるぞ。
- ・お玉が池種痘所から遠い人は、どうしていたのだろう



資料 町田市にある碑



資料 指田鴻齋肖像画（出典 『心たくましく』）

- ・疱瘡神社の分布図や、種痘を打てる場所の位置など空間的な広がりに着目する。
- ・指田鴻齋や青木得庵と伊東玄朴など、人々の相互関係に着目する。

- ・こうして打つ場所が増えると打ちに行きやすくなる。
- ・青木得庵や指田鴻齋は、打ちに来やすくするために、いろいろなことをしていることが分かった。

第10時の資料（まとめる）

◆学んだことをいかして、伊東玄朴に手紙を書こう。

- ・伊東玄朴たち、多くの人に関わって天然痘にかかる人が減っていったことが分かった。
- ・種痘所が今の自分たちの生活につながっていることが分かった。

伊東玄朴たちの尽力や江戸の人々の思い、自分たちの生活とのつながりに着目する。



小単元名	そめもののさかんな新宿区	配当10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	--------------	--------	-----------------------

＜主として「地理的環境と人々の生活」の区分＞

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

染め物産業の盛んな新宿区の様子について、盛んな地域の位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種資料を活用して調べて、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、様々な立場の人々が協力し、特色あるまちづくりや染め物産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に伝統的な産業を大切にしていこうとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 新宿区の位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などについて調べ、必要な情報を集め、読み取り、染め物産業が盛んな新宿区の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や文章などにまとめ、染め物産業に携わる人々が協力し、特色あるまちづくりや染め物産業の発展に努めていることを理解している。</p>	<p>① 新宿区の位置や自然環境、染め物産業に携わる人々の活動や歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見出し、染め物産業が盛んな新宿区の様子について考え表現している。</p> <p>② 特色ある地域の人々の活動や産業を地域の発展と関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、染め物産業のさかんな新宿区の特色を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>① 染め物産業の盛んな新宿区について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことを基に、これからの伝統的な技術を生かした地場産業について、東京都民の一人として、どのようにかかわっていくべきか考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

①本小単元は、内容(5)の「地理的環境と人々の生活」に関する内容で構成した単元である。事例として、東京都で伝統的な染め物産業が盛んな地域である新宿区を中心に上げる。染め物産業は自然環境との関連が強いとともに、分業により多くの職人が協力して着物等を作っている。また、新宿区は、行政や地域住民など、様々な立場の人々が協力して、染め物産業を未来に受け継いでいくための取組がなされており、地域の位置、自然環境、産業の歴史的背景に着目して調べ、その特色を捉える上で効果的であるとする。

(2) 教材や資料の工夫

①小単元の導入で、東京都における伝統工芸品を概観し、東京都にも伝統的な技術や産業が受け継がれていることに気付かせる。そして、新宿区の染め物産業から東京染小紋を中心に上げ、実物を提示しながら関心をもたせ、社会的事象の見方・考え方(時期や時間の経過、位置や空間的な広がり)を働かせて、新宿区における染め物産業の成り立ち、技術や技法の伝承、自然環境の条件、人々の協力による町づくりの取組について、調べたり考えたりできるようにする。

②相互関係的に町づくりの様子を捉えられるように、様々な立場の人々が取り組むイベントを教材として取り上げる。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①染め物産業の「歴史的背景、人々の協力関係などに着目」して児童自らが問いをもち、主体的・対話的に追究することができるように、様々な立場の人々とかわりながら追究する活動を設定していく。

②全国伝統的工芸品の東京染小紋・東京手描友禅、東京都伝統工芸品の江戸更紗・江戸刺繍・東京無地染など、新宿区の染め物産業に携わる人々が協力し合ってその伝統を守り、現代に生かし、まちづくりや地域の発展に結び付けていることを基に、地場産業に対する自分のこれからの関わり方について考える活動を設定する。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される児童の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料 【評価】)
つ か む	①東京都の伝統工芸品について調べ、その概要を知る。	○伝統工芸品の実物や写真を見て、思ったことを話し合う。 ◆東京都にはどのような伝統工芸品があるのだろう。 ○東京都の伝統工芸品について資料を活用して調べ、白地図にまとめ、話し合う。 ・台東区にはたくさんの伝統工芸品がある。 ・新宿区には染め物に関する工芸品が多い。	◎伝統工芸品の実物や写真 □伝統工芸品の要件やよさについて捉えさせる。 ◎東京都伝統工芸品指定制度や指定品一覧、等尺年表、東京都の地図 【知①】
	②染め物産業が盛んな様子について調べ、学習問題をつくる。	○東京染小紋の実物または写真を見て気付いたことや疑問に思ったことを発表し合う。 ◆新宿区の染め物まつ頃から始まり、どこで行われているのだろう。 ○新宿区の工房の数の表や場所を示した地図や年表から、気付いたことや疑問に思ったこと等をメモする。 ・新宿区の染物産業は江戸時代から盛んだった。 ○資料から気付いたこと、疑問に思ったこと、調べたいことを発表し合い、整理して学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新宿区では、どのようにして染め物産業が盛んになり、受け継がれていったのだろう。</div>	◎東京手描友禅の実物または写真 ◎染め物に関する工房等の数の表または場所を示した地図 ◎「染めの小径」の写真 ◎染め物に関する年表 □児童の言葉を生かして学習問題を設定する。 【思①】
	③染め物産業が盛んな様子について予想し、学習計画を立てる。	○学習問題について予想したことを発表し合う。 ・新宿区は、染め物に適した場所だったのではないかな。 ○学習計画を立てる。 ・どのように染め物は作られているのだろう。	◎前時の資料 □予想を分類しながら、問いの形で学習計画を立てる。 【態①】
調 べ る	④東京染小紋がどのようにつくられているのか調べる。	◆東京染小紋はどのようにしてつくられているのだろう。 ○東京染小紋の作業工程を調べる。 ・道具を工夫して使い、伝統的な技術を生かしている。 ・細かい手作業を丁寧に積み重ねて、やっとできる。 ・多くの職人さんが分業で作っている。	◎作業工程の分かる写真または動画等の映像資料 ◎道具の実物または写真資料 □ワークシートにまとめさせる。 【知①】
	⑤職人がどのような工夫や努力をしているか調べる。	◆職人はどのようにして技を身に付け、伝統を守ってきたのだろう。 ○職人がどのようにして伝統的な技法・技術を守り、現代に生かしているか、調べる。 ・昔からの伝統的な技法を守り、伝えていくのは大変なことだ。	◎職人へのインタビュー(直接または動画や文章資料) □可能ならゲストティーチャーとして招聘する。 【知①】
	⑥新宿区で染物業が盛んなわけを調べ、話し合う。	◆なぜ新宿区で染め物が盛んになったのだろう。 ○古くから川を利用してきたこと、物流と流行を取り入れやすい位置にあったことなど、歴史的背景について調べ、話し合う。 ・川の水を利用していたから。・江戸が近かったから。	◎工房等の数の表または場所を示した地図(①の資料) ◎染め物に関する年表 □歴史的背景に着目させる。 【思①】
	⑦染め物に携わる人々がどのように協力し合っているのか調べ、話し合う。	◆「染めの小径」等のイベントはどのように行われているのだろう。 ○どのような人々が、どのようにして行っているのか調べる。 ・行政、地域、職人など様々な立場の人がかかわっている。 ○染め物産業に携わる人々が協力し合って、まちづくりや地域の発展のためにどのような取組をしているか調べ、話し合う。	◎現在の取組のわかる資料 □染物業、区役所等関係する方から資料を入手する。可能であればゲストティーチャーとして招聘する。 【知①】
ま と め る	⑧⑨調べたことについてまとめ、染め物産業が盛んな新宿区の特徴を考える。	○新宿区の染め物産業に携わる人々が、特色あるまちづくりや産業の発展に努めている様子についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・染め物産業が盛んな新宿区は、自然条件を生かしながら様々な立場の人々が協力して、古くからの伝統を受け継いでいる。</div> ○染め物産業が盛んである新宿区の特徴について、根拠や例を示しながらノートにまとめ、話し合う。	◎本時までの資料 ◎本時まで調べたこと □これまでの学習を総合して、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。 【知②】 【思②】
い か す	⑩地場産業に対するこれからの自分の関わり方について考える。	○これまでの学習を振り返り、地場産業に対して自分がこれからどのように関わるか考え、ノートにまとめ、話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・地場産業に興味をもち続けていきたい。 ・他の地場産業の素晴らしさも見付けたい。</div>	◎本時まで調べたこと □これまでの学習を総合して、これからの関わり方について考えさせる。 【態②】

小単元名	豊かな自然環境を守り生かす小笠原	配当 10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------------	---------	-----------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

豊かな自然環境を守り生かしている小笠原について、位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめることを通して、小笠原では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、東京都に対する誇りや愛情をもち、東京都民の一人として豊かな自然を大切にしていこうとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①小笠原の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、小笠原の様子を理解している。 ②調べたことをガイドマップや文などにまとめ、小笠原では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	①小笠原の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見出し、小笠原の様子について考え、表現している。 ②小笠原の人々の活動や産業と関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、小笠原の位置や自然環境、小笠原の特色を考え、適切に表現している。	①小笠原の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②東京都民の一人として小笠原の自然環境の素晴らしさやそれを守ることの大切さについて考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)の「県内の特色ある地域の様子」についての内容の1つである「地域の資源を保護・活用している地域」の中の「自然環境を保護・活用している地域」の事例として設定した単元である。これに替えて八丈島や檜原村などを事例として取り上げることできる。また、自分たちの住む地域の様子を考慮して、浅草などの「伝統的な文化を保護・活用している地域」を取り上げることできる。
- ②内容の取扱いの解説に「世界遺産に登録されている地域(中略)などを取り上げること考えられる」と記述されている。本小単元では、平成23年6月に都で初めて世界自然遺産に登録された小笠原(小笠原村)を取り上げる。

(2) 教材や資料の工夫

小笠原は都心からはるか南方の太平洋上にある父島や母島をはじめとする大小30余りの島々から成り立っている。気候帯は亜熱帯に位置し、気温の変動が比較的少ない海洋性気候であり、台風シーズンにはしばしば台風の通過がある。動植物の独自の生態系が広がっており、固有種を守るための外来種対策にも取り組み、豊かな自然を守る取組を進めている。都心の竹芝桟橋から父島二見港へは定期船で24時間の船旅が必要である。母島に行くにはさらに船で2時間かかる。

小笠原では、組織的・協力的に自然保護を第一義にしながらエコツーリズムの考えで観光業の発展に取り組んでいる。また、他の島々にはない特色ある豊かな自然を活用して漁業や農業が営まれている。このような小笠原の豊かな自然や島の人々の日々の営みに触れることができる教材を提示し、特に写真資料を多く活用して学習を進めることができるようにする。

なお、太平洋戦争激戦の地である硫黄島、日本最南端の沖ノ島、日本最東端の南鳥島も小笠原村に属している。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①単元の導入で小笠原の豊かな自然環境を提示し、そこに住む人々がどのような暮らしをしているのか予想を立てる。それを基に学習計画を立てることで、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②小笠原の自然環境や産業、人々の取組を具体的に追究することができるようにするために、地図帳や写真、パンフレットなどを準備し、小笠原の人々の話や島の様子が分かる映像資料なども活用する。また、学習を進める中で自分の住んでいる地域との比較を通して、小笠原の特色を考えられるようにする。
- ③「まとめる」段階で作成するガイドマップをもとに、豊かな自然環境を保護・活用している小笠原の特色について交流する活動を設定する。交流後、ガイドマップに学習問題に対する自分の考えをまとめ、表現できるようにする。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つかむ	①小笠原に興味関心をもち、その位置や気候の様子など理解する。	○小笠原の写真を見て、どこか予想する。 ◆小笠原はどこにあり、どのような様子なのだろう。 ○小笠原村の位置や交通手段、気候を調べる。 ・東京から約1000km離れていて、船で24時間かかる。 ・平均気温が高く、暖かい気候。	◎小笠原の写真(海、森、クジラ) ◎地図帳 ◎小笠原村の雨温図のグラフ □自分の地域との違いを考える。 【知①】
	②自然の様子を調べ、自然が豊かであることを理解する。	◆小笠原にはどのような自然があるのだろう。 ○小笠原の自然環境や固有の動植物について調べる。 ・小笠原は一度も陸続きにならなかったことのない島なので、ここにしかない珍しい生き物が沢山いる。 ・2011年に世界自然遺産に登録、観光客も増えた。	◎世界自然遺産・小笠原諸島パンフレット(土木課) ◎小笠原特有動植物の資料 ◎観光客の推移のグラフ 【知①】
	③これまでの学習をもとに学習問題をつくり、予想を基に学習計画を立てる。	○小笠原の人々の様子が分かる資料などから、疑問に思ったことや調べたいことを整理して学習問題をつくる。 小笠原の人々は、豊かな自然の中でどのようにくらしているのだろう。【思①】 ○学習問題の解決に向けて予想を話し合う。 ○学習計画を立てる。 ・産業(農業・漁業・観光業) ・世界遺産登録までの取組 ・自然を守る取組	◎小笠原の人々(農家・漁師・観光ガイド・自然保護ボランティア) □小笠原の人々の様子と自然との関わりを意識させながら学習計画を立てる。 【態①】
調べ	④小笠原の自然や気候を生かした産業について調べる。	◆小笠原の人はどのように仕事をしているのだろう。 ○漁師さんの話から、小笠原の近辺の海を生かした漁業について調べる。 ○パッションフルーツ農家の方の話から、気候に合った小笠原の農業について調べる。	◎農水産物の写真 ◎漁協の方、農家の方の話(映像) □気候に合わせた作物を作ったり、豊かな海で漁をしたりしていることを捉えさせる。【知①】
	⑤小笠原の自然を生かした観光業について調べ、人々の思いや願いを考える。	◆小笠原の人はどのように観光の仕事をしているのだろう。 ○小笠原の観光業を調べ、人々の思いや願いを話し合う。 ・クジラ・イルカツアーやネイチャーガイドなど、小笠原の自然を守りながら、自然を生かした仕事をしている。 ・村の人々は観光客に対して、「また来てほしい」という思いで接している。	◎観光客の推移のグラフ ◎世界自然遺産・小笠原諸島パンフレット(観光課) □小笠原の人々の思いや願いを吹き出しに表現する。 【知①】
	⑥世界自然遺産に登録されるまでの取組を調べる。	◆小笠原が世界自然遺産に登録されるまでに、人々はどのような取組をしてきたのだろう。 ○小笠原の生態系を守るための取組について調べる。 ・生態系に影響を与えるアカギやグリーンアノール、野ヤギなどの外来種の駆除をしている。 ・外来種を防ぐために外来種除去装置を設置している。	◎世界自然遺産登録までの経緯 ◎世界自然遺産・小笠原諸島パンフレット(環境省) □登録までの8年の間に人々の努力があって世界自然遺産になったことを捉える。【知①】
まとめる	⑦⑧小笠原の自然環境を保護するための取組について調べる。	◆小笠原の人々は、豊かな自然を守るために、どのような取組をしているのだろう。 ○小笠原の人々の自然保護や活用の取組を調べる。 ・アホウドリやトンボを守る取り組みをしている。 ・小笠原カントリーコードなどのルールを作っている。 ・ネイチャーガイドはルートが決まっている。エコツアーリズムなどを行っている。	◎世界自然遺産・小笠原諸島パンフレット(総務課) ◎小笠原の自然のために私たちが取り組むことパンフレット □国・都・村民など様々な自然を活用して仕事をしていることを捉える。【知①】【思①】
	⑨⑩調べたことをガイドマップに整理し、学習問題について考える。	○学習問題への自分の考えをまとめる。 小笠原の人々は互いに協力しながら、小笠原の豊かな自然環境を守り、生活や仕事に生かしてくらしている。 ○既習したことを関連付けて小笠原の特色やよさを紹介するガイドマップ等を作り、小笠原の特色を話し合う。	□自然環境と人々の活動や産業を関連付けて考えるよう助言する。【思②】 □ガイドマップには特色やよさを伝えることができるように内容を選択させる。【知②】【態②】

第1時の資料(つかむ)

◆小笠原はどこにあり、どのような様子なのだろう。

小笠原の概要について空間的な広がりや時間の経過に着目する。

資料 心、動く島。小笠原(動画)



あ、イルカだ。きれいな海だな!! 泳いでみたいな。

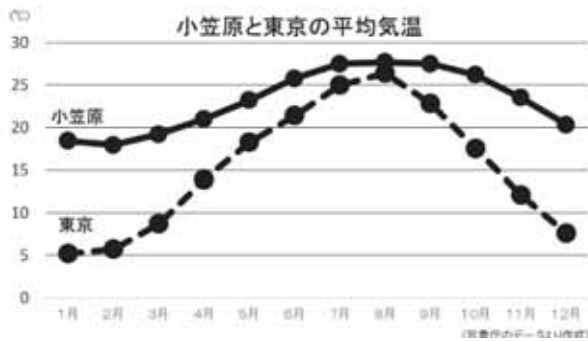
見たことない鳥だな。東京のどこなんだろう。

【指導上の留意点】

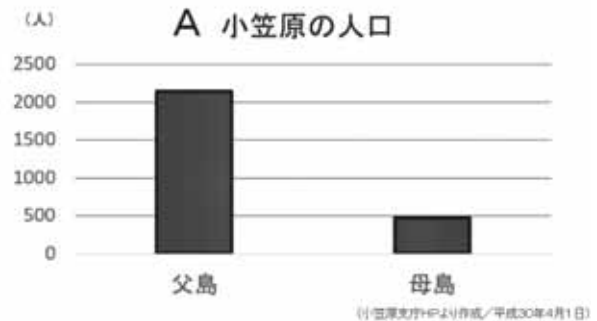
約1000km離れている小笠原を身近なものに感じさせたい。そのために、インパクトの強い動画を活用する。自然の豊かさは、動画を見ることですぐに感じることができる

(出典:小笠原村観光局HP)

資料 小笠原と東京の平均気温



資料 小笠原の人口

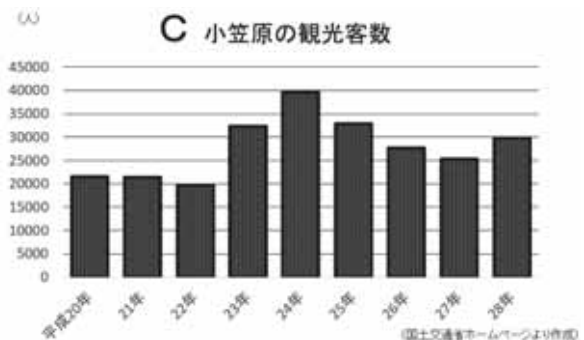


資料 おが丸の時こく表

B おが丸の時こく表

日	東京発	父島着	父島発	東京着
2月14日(木)	11:00			
15日(金)		11:00		
16日(土)				
17日(日)				
18日(月)			15:30	
19日(火)				15:30
20日(水)	11:00			
21日(木)		11:00		
22日(金)				
23日(土)				
24日(日)			15:30	
25日(月)				15:30

資料 小笠原の観光客数



【学習問題】

小笠原の人々は、豊かな自然の中でどのようにくらししているのだろう。

第5時の資料（調べる）

◆小笠原の人はどのように観光の仕事をしているのだろう。

小笠原で働く人、観光客など、人々の相互関係に着目して捉える。

資料 森ツアーの自主ルール

《ドルフィンスイム 自主ルール》

①1つのイルカの群れと遊べるのは、4つの船まで



②2つの船で1つのイルカの群れと遊ぶときは、海に入れる回数は、それぞれ5回まで



（出展：小笠原ルールブック）

【指導上の留意点】

小笠原では、ドルフィンスイムや森ツアー、ナイトツアーをやっているという事実のみを調べるのではなく、自主ルールも調べさせることで、小笠原に住む人の小笠原や仕事に対する想いも考えさせる。

イルカに負担をかけないようにルールを決めて、仕事をしているんだね。

いつまでも小笠原の豊かな自然が続くといいな。イルカと泳いでみたい。

資料 海ツアーに参加した人のお話

海ツアーに参加した人のお話

イルカと泳ぐことを楽しみにしていました。ツアーの日は、お天気にも恵まれ、波もないおだやかな海でした。船長さんの見事な船の運転で、船の上からでも、イルカを近くで見ることができました。海に入ってみると、とてもかわいいイルカと、たくさん遊ぶことができました。イルカと目が合った時は、とてもうれしくなりました。

資料 森ツアーの自主ルール

《自然観察 自主ルール》

①森は、決まった道（自然観察路）を歩く



（出展：小笠原ルールブック）

資料 小笠原のナイトツアー



夜も小笠原の自然を生かした仕事をしているんだね。

第9・10時の資料（まとめる）

【指導上の留意点】

「調べる段階」で調べた情報を関連させて、学習問題に対する自分の考えを書かせる。また、児童一人ひとりの小笠原に対する想いを書かせることも大切である。

小笠原の人々は互いに協力しながら、小笠原の豊かな自然環境を守り、生活や仕事に生かしてくらしている。

小単元名	豊かな自然環境を守り生かす八丈島	配当10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)及びイの(ア)
------	------------------	--------	------------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

豊かな自然環境を守り生かしている八丈島の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめることを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、東京都に対する誇りや愛情をもち、東京都民の一人として豊かな自然を大切にしていこうとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①八丈島の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、八丈島の様子を理解している。</p> <p>②調べたことをガイドマップや文などにまとめ、八丈島では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。</p>	<p>①八丈島の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見出し、八丈島の様子について考え、表現している。</p> <p>②八丈島の人々の活動や産業と関連付けたり、自分たちの住んでいる地域と比較したりして、八丈島の位置や自然環境、八丈島の特色を考え、適切に表現している。</p>	<p>①八丈島の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②東京都民の一人として八丈島の自然環境の素晴らしさやそれを守ることの大切さについて考えようとしている。</p>

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、内容(5)の「県内の特色ある地域の様子」についての内容の1つである「地域の資源を保護・活用している地域」の中の「自然環境を保護・活用している地域」の事例として設定した単元である。これに替えて小笠原や檜原村などを事例として取り上げることもできる。また、自分たちの住む地域の様子を考慮して、浅草などの「伝統的な文化を保護・活用している地域」を取り上げることもできる。

(2) 教材や資料の工夫

八丈島は、都心の南方海上に位置し富士火山帯に属する島であり、黒潮（暖流）の影響を受けた海洋性気候で高温多湿である。この自然環境を生かした花き観葉植物栽培や沿岸漁業が島の基盤産業である。「くさや」の食品加工業、黄八丈織の伝統工芸にかかわる仕事も多い。豊かな自然を生かし、活用しながら地産地消にも力を入れて漁業や農業を維持・発展させている。

飛行機で羽田空港からわずか1時間で八丈島へ行くことができるという利便性がある。島内では、観光関連のサービス業に従事している人も多い。自然保護につながるエコツーリズムについては、取り組み始めたところである。

このような八丈島の現状や特性を踏まえて、島の人々の日々の営みに触れることができる教材を提示し、特に写真資料を多く用いて学習を進めることができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

①単元の導入で八丈島の豊かな自然環境を提示し、そこに住む人々がどのような暮らしをしているのか予想を立てる。それを基に学習計画を立てることで、児童が主体的に追究できるようにする。

②八丈島の自然環境や産業、人々の取組を具体的に追究することができるよう、地図帳や写真、パンフレットなどを活用する。また、八丈島はホームページやダウンロード可能な資料も充実していることから、ICTを活用するとよい。学習を進める際には、自分の住んでいる地域との比較を通して、八丈島の特色を考えられるようにする。

③「まとめる」段階で作成するガイドマップをもとに、豊かな自然環境を保護・活用している八丈島の特色について交流する活動を設定する。交流後、ガイドマップに学習問題に対する自分の考えをまとめ、表現できるようにする。

3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は○時を表す)	○主な学習活動 ◆主な問い 予想される子供の反応 (・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①八丈島に興味関心をもち、その位置や気候の様子などを理解する。	○八丈島の写真を見てどこか予想する。 ◆八丈島はどこにあり、どのような様子の島なのだろう。 ○八丈島の位置や交通手段、気候を調べる。 ・東京から 300 km 離れている。 ・飛行機なら羽田空港から 55 分で行ける。 ・東京よりも冬が暖かく、夏が涼しい。 ・10 月に雨が多い。	◎八丈島の写真(海、山、島の形、フェニックスロベレニー等) ◎地図帳 ◎八丈島の雨温図 □自分の地域との違いを考える。 【知①】
	②自然の様子を調べ、自然が豊かであることを理解する。	◆八丈島にはどのような自然があるのだろう。 ○自然環境や多く見られる動植物などについて調べる。 ・きれいな海に囲まれている島である。 ・火山がある。・牧場がある。 ・トビウオやカツオなどの魚がとれる。 ・南国にあるような花や葉、木がある。	◎八丈島のパンフレット ◎八丈島の動植物の資料 ◎観光客のグラフ 【知①】
	③これまでの学習をもとに学習問題をつくり、予想を基に学習計画を立てる。	○八丈島の人々の様子が分かる資料などから、疑問に思ったことや調べたいことを整理して学習問題をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">八丈島の人々は、豊かな自然の中でどのようにくらしているのだろう。</div> ○学習問題の解決に向けて予想を出し合う。 ○学習計画を立てる。 ・産業(観光業・農業・漁業など) ・自然を守り、生かす取組	◎八丈島の人々(農家・漁師・観光業・自然保護ボランティア) 【思①】 □八丈島の人々の様子と自然との関わりを意識させながら学習計画を立てる。 【態①】
調 べ る	④八丈島の人々の自然を生かした観光業について調べる。	◆八丈島の人々はどのような仕事をしているのだろう。 ・山や海の美しさや自然の豊かさを味わうことができるようなハイキングやダイビングなどツアーを企画している。	◎観光客の推移のグラフ ◎八丈島のパンフレット □八丈島の人々の思いや願いを吹き出しに表現する。 【知①】
	⑤八丈島の自然や気候を生かした産業について調べる。	◆八丈島の人々はどのような仕事をしているのだろう。 ○漁師さんの話から八丈島の近辺の海を生かした漁業について調べる。 ・トビウオやアジを加工してくさやという特産物を作っている。	◎水産物の写真 ◎漁師の方の話 □島の気候や自然条件を生かして、漁をしていることを捉えさせる。 【知①】
	⑥八丈島の自然や気候を生かした産業について調べる。	◆八丈島の人々はどのような仕事をしているのだろう。 ○フェニックスロベレニー農家の方の話から気候に合った農業について調べる。 ・温暖な気候を生かして島でよく育つ植物を育て、販売している。	◎農産物の写真 ◎農家の方の話 □島の気候や自然条件を生かして、農業をしていることを捉えさせる。 【知①】
	⑦⑧八丈島の環境を保護、活用するための取組の内容や人々の思いについて考える。	◆八丈島の人々は、豊かな自然を守り生かすためにどのような取組をしているのだろう。 ・地域の人達と協力してエコツアーの考え方を大切に、エコツアーガイドを育てるなど、活動に取り組もうとしている。 ○島の環境を保護、活用する人々の思いや願いを話し合う。 ・身近な自然に興味・関心をもち、知識をもつことで環境を守っていけるのではないだろうか。	◎八丈島のパンフレット □国・都・島民などがさまざまな自然を活用して仕事をしていることを捉える。 【知①】【思②】
ま と め る	⑨⑩調べたことをガイドマップに整理し、学習問題について考える。	○学習問題への自分の考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">八丈島の人々は、互いに協力しながら豊かな自然環境を守り、生活や仕事に生かして暮らしている。</div> ○既習したことを関連付けて、八丈島の特色やよさを紹介するガイドマップ等を作り、八丈島の特色を話し合う。	□自然環境と人々の活動や産業を関連付けて考えるよう助言する。【思②】 □ガイドマップには特色やよさを伝えるができるように内容を選択させる。 【知②】【態②】

小単元名	江戸の文化を伝える浅草	配当10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	-------------	--------	-----------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

伝統的な文化を保護・活用している浅草について、その位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、浅草の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、浅草では、歴史ある建造物やまち並み、祭りなどの地域の伝統的な文化を受け継ぎながら、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決し、学習したことを基に、東京都に対する誇りや愛情をもち、東京都民の一人として受け継がれた伝統や歴史を大切にしていこうとする態度を養う。

(2) 小単元の観点別評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①浅草の位置や人々の活動の歴史的背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、浅草の様子を理解している。	①浅草の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見出し、浅草の地域の様子について考え、表現している。	①浅草の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことをガイドマップや文章などにまとめ、浅草では、地域の伝統文化を受け継ぎながら、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②浅草の人々の活動や産業と地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、浅草の特色を考え、適切に表現している。	②東京都民の一人として、浅草に受け継がれる伝統的な文化の素晴らしさや、それを伝えていくことの大切さについて考えようとしている。

2 指導計画の作成に当たって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)の「県内の特色ある地域の様子」についての内容の1つである「地域の資源を保護・活用している地域」に関する内容で構成した単元である。地域の資源を保護・活用している地域については、自然環境、伝統的な文化のいずれかを選択して取り上げる。事例地選択の際には、自分たちの地域の様子と比較しながら、それらの特色を捉えられるように配慮する。
- ②伝統的な文化を保護・活用している地域を取り上げる際には、県内の文化財や行事を保護・継承している人々の努力を扱う内容(4)「県内の伝統や文化」の学習との違いに配慮する。

(2) 教材や資料の工夫

東京都台東区は、平成30年度の統計で、外国人950万人以上を含む年間5500万人以上の観光客が訪れる、日本でも屈指の観光地である。その中でも特に浅草は、そのシンボリックな地域であり、浅草寺や仲見世通りを中心とする歴史的建造物や町並み、江戸三大祭りの一つである三社祭や、昔から受け継がれる数々の祭りや年中行事、人情味あふれる下町情緒は、他地域にはない大きな魅力であり観光資源となっている。しかし、このような浅草でも、1960年代には、新宿や渋谷などの新しい街に人々が流れてしまうこともあった。このような状況の中、地域の人々、区役所など様々な立場の人々が協力をして、浅草の伝統的な文化を生かしながら、手作りの案内板の設置や、サンバカーニバルなどの新たな取組、商店街の整備などを積極的に進め、地域の再興に取り組んだ。その結果が今の賑わいにつながっているのである。浅草の町並みや年中行事、賑わいの様子や、台東区を訪れる観光客数の変化から、そこで活動する人々に着目させ、その働きや協力関係について、主体的に追究できるようにしたい。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①歴史的な建造物や年中行事、その賑わいなどから浅草の様子を捉えさせるとともに、賑わいが消えた様子とを比較しながら、地域の人々はどうのようにして賑わいを取り戻したのか疑問をもたせ、学習問題をつくる。そして、予想を基に学習計画を立て、児童が主体的に追究できるようにする。
- ②受け継がれる文化財や年中行事、地域の人々の取組について主体的に調べられるように、パンフレットや、地域の人々のインタビュー資料、インターネットも活用していきたい。具体的な追究活動として、観光ボランティアガイドを利用した社会科見学を年間計画に位置付けておくと、より効果的である。
- ③「まとめる」段階では浅草の見所とそこに込められた人々の努力や思いをガイドマップにまとめ、それを交流し合う。そして、編集後記として、学習問題について自分の考えをまとめる。

3 小単元の指導計画（10時間扱い）

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導・支援 (□留意点◎資料【評価】)
つ か む	①浅草の様子に関心をもち、その位置や町の様子など理解する。	○浅草の写真から気付いたことを話し合いどこか予想する。 ○浅草の位置や、観光客数を調べる。 ◆浅草に多くの観光客がおとずれるのはなぜだろう。 ○浅草の文化財や、年中行事を調べる。 ・浅草寺や浅草神社など文化財が多い。年間通じて行事。	◎写真(雷門、仲見世、三社祭) ◎台東区の年間観光客数グラフ ◎地図帳、浅草の年中行事、文化財 □自分の地域との違いを考える。 【知①】
	②昔と今の浅草を比べ、町の賑わいの変化から学習問題をつくる。	◆浅草の賑わいの様子は、どう変わったのだろう。 ○昭和初期、約60年前、現在の浅草仲見世の賑わいの様子を比べ気付いたことを話し合う。 ・約60年前消えた賑わいが、なぜ戻ってきたのか。 ○話し合ったことをもとに学習問題をつくる。	◎浅草仲見世の写真(昭和初期、約60年前、現在) □渋谷や新宿など新しい街に賑わいが移ったことを補説。賑わいがどのように戻ったのか疑問を高め
	浅草のにぎわいを取りもどすために、どのような人々が、どのようなことをしたのだろう。 【思①】		
調 べ る	③学習問題についての予想を基に、学習計画を立てる。	○学習問題に対して、これまで学習したことや、現在の町並みや、イベントなどの写真をもとに予想を立て、話し合う。 ○予想を基に学習計画を立てる。 ・地域の人々が、新しい取組を始めたのではないか。 ・地域の人々が、昔から受け継がれる伝統や文化を守り、活用したのではないか。ボランティアも活躍したのでは。	◎写真(サンバカーニバル、伝法院通り、ボランティアガイド等) □伝統や文化、新しいもの、活動している人々に着目して、予想を立てるように助言する。 【態①】
	④賑わいを取り戻すための新しい取組について調べ、理解する。	◆浅草のまちの人々は、どのような新しい取組を始めたのだろう。 ○新しい取組や、その中心となった浅草おかみさん会：富永さんの努力や思いについて資料を活用して調べる。 ・手作り案内板 ・サンバカーニバル ・二階建てバス	◎イベントや新しい取組の年表と写真、パンフレット等 ◎浅草おかみさん会：富永さんの話 ○新しい取組の基にある思いや願いに着目させる。 【知①】
	⑤江戸の文化や伝統を生かしたまちづくりの取組について調べ、その様子を理解する。	◆浅草のまちの人々は、受け継がれる江戸の文化や伝統をどのようにまちづくりに生かしたのだろう。 ○浅草のまちの人々は、江戸の文化や伝統をどのようにまちづくりに生かしているのか、資料を活用して調べる。 ・江戸の文化を生かした商店街の整備 ・芝居小屋の復活	◎年中行事の様子、行事の歴史 ◎パンフレット等 ◎伝法院通りの今と昔の写真 □小笠原の人々の思いや願いを吹き出しに表現する。 【知①】
	⑥浅草の人々は、どのように江戸の文化財や伝統行事を守ってきたのか調べ、その様子を理解する。	◆浅草のまちの人々は、文化財や伝統行事をどのように守ってきたのだろう。 ○文化財や伝統行事の歴史を、資料を活用して調べる。 ・隅田川花火大会の復活 ・年中行事を支える人々の努力 ・文化財の保全とその歴史	◎伝統行事や文化財の歴史 ◎パンフレット等 □長い間、人々の努力により、行事や文化財が受け継がれ、今があることに気付かせる。 【知①】
	⑦台東区役所や台東区の人々はどのような取組をしているのか調べ、人々の協力について考える。	◆区役所等の人々はどのような取組をしているのだろう。 ○区役所やボランティアの人々の活動の様子について、資料を活用して調べる。 ・パンフレットやポスターなどPR。行事やイベントの協力。 ・浅草のよさを伝えるボランティアガイドを行っている。 ・まちの人々と協力して取り組んでいる。	◎浅草文化観光セーの概要 ◎台東区観光課の人の話 ◎台東区作成のパンフレット等 □区役所と地域の人々との連携、協力に気付くことができるようにする。 【思②】
ま と め る	⑧⑨調べたことをガイドマップにまとめ、学習問題について考える。	○調べたことをもとに、浅草の見所をガイドマップにまとめ、交流し合う。 ○学習問題について、考えを編集後記にまとめ、話し合う。 ・浅草では、地域や区役所の人など、様々な人々が協力して、伝統的な文化を活用しながら、多くの観光客が訪れるまちづくりを進めている。	□文化財や年中行事等の特色やよさを、人々の取組や思いと関連付けて、書き込むよう助言する。【思②】 □調べたことを関連付けて考えるように助言する。 【知②】
	⑩これからの浅草のまちづくりの取組について考える。	◆浅草は、今後、どのようなまちを目指しているのだろう。 ○これからの浅草のまちづくりについて調べ、話し合う。 ・さらに文化や伝統を生かしながら取組を進めていく。	◎浅草地域まちづくり総合ビジョン、区役所の話 【態②】

小単元名	世界とつながる大田区	配当10時間	内容(5)アの(ア)及び(イ)とイの(ア)
------	------------	--------	-----------------------

<主として「地理的環境と人々の生活」の区分>

1 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

国際交流に取り組んでいる大田区について、位置や、国際交流活動及びその背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料、ホームページなどで調べ、文章に記述したり新聞などにまとめたりして地域の様子を捉え、大田区の特徴を考え、表現することを通して、大田区では人々が協力し、国際都市をめざしたまちづくりをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に東京都に対する誇りと愛情をもち、東京都民の一人として地域の外国人と共に生活していくために自分たちができることを考えようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①大田区の位置、国際交流活動及びその背景、人々の協力関係などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、国際交流に取り組んでいる大田区の様子を理解している。 ②調べたことを文章に記述したり、新聞にまとめたりして、大田区では、人々が協力し国際都市を目指したまちづくりをしていることを理解している。	①大田区の位置や国際交流活動の背景、人々の協力関係などに着目して問いを見出し、大田区の様子について、考え、表現している。 ②地域での活動状況と人々の取組を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、国際交流に取り組んでいる大田区の特徴を考え、適切に表現している。	①国際交流に取り組む大田区について、予想や学習を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学んだことを基に東京都民の一人として外国人と共に生きる大切さについて考えようとしている。

2 指導計画の作成にあたって

(1) 学習指導要領との関連

- ①本小単元は、内容(5)「県内の特色ある地域の様子」に「国際交流に取り組んでいる地域」が新たに取り入れられたことを踏まえ、事例地として、羽田空港の再国際化をきっかけに「国際都市おおた」を宣言し、特色ある対応や交流活動を進めている大田区を取り上げた。東京都の地図を活用した大田区の位置の確認、国際交流活動の背景や関係機関の人々の協力関係に着目して調べるようにする。
- ②内容の取扱いについて、外国を取り上げる際、「我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うように配慮する」とある。羽田空港は、現在19の国や地域と定期運航便で結ばれている。地図帳や地球儀を活用して国や地域の位置を確認するとともに、それらの国や地域の旗を示して指導する。

(2) 教材や資料の工夫

- ①「つかむ」段階で、羽田空港と外国とのつながりが分かる資料や羽田空港の国際線乗降客数、大田区の在住外国人数の統計資料を提示し、社会的事象の見方・考え方(位置や空間的な広がり、時期や時間の経過)を働かせながら、大田区の人々が外国人と共に過ごすためのまちづくりについて調べることに興味をもつことができるようにする。
- ②大田区の地域住民が外国人と共に実施した防災訓練と国際都市おおた宣言から学習問題をつくり、「人々の協力関係」に着目することで、行政を中心とした外国人と共生するための取組の様子やその意味を捉えることができるようにする。

(3) 学習展開や学習活動の工夫

- ①外国人の増加に対応した大田区の取組について、「外国人旅行者」「在住外国人」の2つに分けて調べるとともに、NGOやボランティア団体、地域住民、地域に住む外国人等の協力を調べることで、関係する人々の協力関係を多角的に考えられるようにする。
- ②まとめの新聞には、「外国人旅行者」に対する観光振興や「在住外国人」に対する多文化共生のためのそれぞれの立場の人たちの取組を整理してまとめるとともに、学習問題に対する自分の考えを言葉でまとめるようにする。また、作成した新聞を基に、国際交流を進めている大田区の特徴について、自分の考えを説明し合う学習活動を設定する。

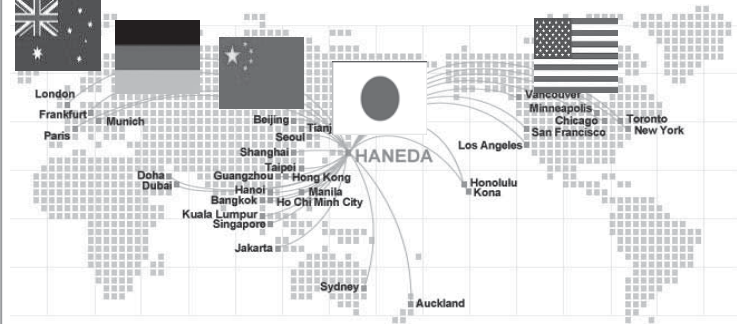
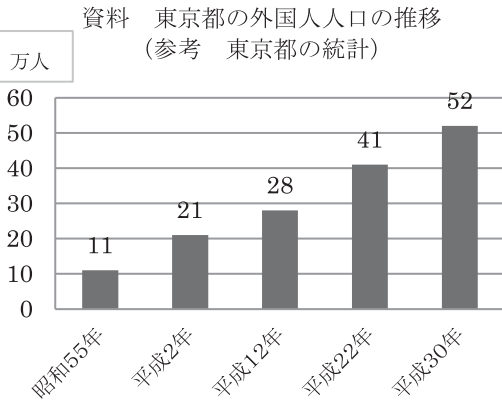
3 小単元の指導計画 (10時間扱い)

過程	ねらい (○数字は第○時を表す)	主な問い(◆)と主な学習活動(○) 予想される子供の反応(・)	教師の指導と評価 (□留意点 ◎資料 【評価】)
つ か む	①地域で外国の人々と共に生活していることに気づき、東京の外国人数が増加し続けていることを知る。	○身近な地域で出会う外国の人々が、観光や仕事・生活のために日本に来ていることに気付く。 ◆東京都にいる外国の人々の数は、どのように変わっているのだろう。 ○外国の人々が働いている様子の写真を見て、仕事や生活などの様々な問題に直面する例について話し合う。 ○外国人人口が40年前に比べて5倍に増えていること背景について話し合い、学習感想を書く。	◎大田区や東京都で観光したり、生活したりしている外国人の写真 ◎日本で働いている外国人の写真 ◎東京都に住む外国人数の変化のグラフ 【知①】
	②羽田空港は、世界とつながる玄関口であることを知る。大田区に住んでいる外国人数・国籍を調べ、増加している背景を予想する。	○世界とつながる玄関口である羽田空港(大田区)の写真を見て、知っていることを話し合う。 ◆大田区は、どのように外国とつながっているのだろう。 ○東京都での大田区の位置、羽田空港の位置や羽田空港が平成22年に再国際化されたことを調べる。 ○大田区に住んでいる外国人の数や国籍別内訳を調べる。	◎東京都での大田区の位置がわかる地図 ◎国際線ターミナルの写真 □我が国や外国の国旗を尊重することを指導する。 ◎大田区の外国人人口のグラフ 【知①】
	③「国際都市おおた宣言」を出した大田区のまちづくりについて、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	◆大田区では、なぜ外国人と一緒に防災訓練を行ったのだろう。 ・外国人の人々と共に生活しようとしている。 ・参加した人々は日本・大田区に住み続けようとしている。 ○国際都市おおた宣言「おもてなし・ふれあい・未来」について 大田区の人々は、国さい都市をめざして、どのようにまちづくりを進めているのだろう。 ○外国人旅行者に対する取組を予想する。 ○在住外国人に対する取組を予想する。 ○予想したことを発表し合い、学習計画を立てる。	◎大田区の町会が行った外国人も参加した防災訓練の写真 ◎大田区に住む外国人の話 ◎国際都市おおた宣言 □外国人旅行者と在住外国人に分ける。【思①】【態①】
調 べ る	④外国人旅行者が安心して観光をしたり過ごしたりできる取組を行い訪問者が多いまちにしようとしていることを調べる。	◆外国人旅行者のために、大田区ではどんな「おもてなし」の取組をしているのだろう。 ○大田区や地域住民の取組を調べる。 ・観光情報センター・ウェルカムショップ・特区民泊施設 ○区、地域住民、外国人旅行者の関係をまとめる。 ・区と住民が協力し外国人旅行者の「おもてなし」をしている。	◎大田区多文化共生実態調査の結果 ◎観光情報センターの写真 ◎ウェルカムショップの写真 ◎外国語での道案内表示の写真 ◎民泊施設の写真や利用した外国人の話 【知①】
	⑤⑥在住外国人が安心して生活できるようにするための取組を調べ、関係機関の連携を促え、国際都市おおた協会と大田区の役割を調べる。	◆在住外国人のために、大田区ではどのような「ふれあい」の取組をしているのだろう。 ○国際都市おおた協会の取組を調べる。 ・ジャパンデイ 多文化交流イベント ・多言語による相談窓口(mics おおた) ・学校からの手紙を読むための保護者向け講座の開催 ○大田区の取組を調べる。 ・空の日 来～るおおた区大使	◎多言語相談窓口や学校からの手紙を読むための保護者向け講座の写真 ◎国際都市おおた協会、各イベントのHPや各担当者的話 ◎来～るおおた区大使の国別人数のグラフ 【思①】
	⑦ものづくりの技術を生かして世界とつながり、地域を発展させようとしていることを調べる。	◆ものづくりの技術とは、どのようなものなのだろう。 ○大田区の町工場のものづくりについて調べる。 ◆「ものづくりの力で未来をつくる」とは、どのような意味なのだろう。 ○大田区のものづくり支援の取組を調べる。	◎町工場の分布図や写真 ◎都内の工場数のベスト5 ◎仲間まわしネットワーク ◎見本市や商談会の写真 【知①】
ま と め る	⑧姉妹都市や友好都市との交流を調べる。	◆大田区は、外国の都市とどのような交流をしているのだろう。 ○中国北京市朝陽区、アメリカ合衆国マサチューセッツ州セーラム市、ドイツブレーメン市との交流を調べる ・卓球交歓大会・中学生海外派遣・市民団の茶道体験	◎友好都市の朝陽区、姉妹都市のセーラム市を調べる地図 ◎市民団の団長の話 【思①】
	⑨⑩国際都市をめざす大田区のまちづくりの取組について、自分で選んだ内容やその理由を新聞にまとめる。	◆大田区の人々は、外国の人々と共に過ごすために、どのようなまちづくりを進めているのだろう。 ○学習したことを関連付けて、国際都市をめざしている大田区の人々のまちづくりを新聞にまとめる。 ○作成した新聞を基に、自分の考えを説明し合う。 ○自分たちの地域での国際交流の取組について調べる。 大田区では、外国人と共に過ごすために、区、NGOやボランティア団体、地域の人が協力して国際交流を進め、国際都市をめざしたまちづくりをしている。	□板書でまとめ方のポイントを例示する。 ◎自分の地域の現状の資料 □大田区の特徴を、自分の住んでいる地域と比較して考えさせる。【知②】【思②】【態②】

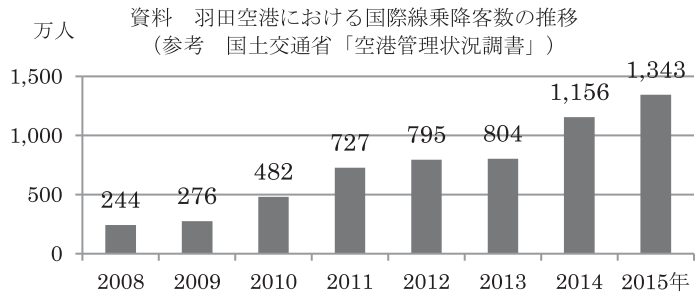
第1・2時の資料(つかむ)

◆ 東京都の外国人の人口はどうなっているのだろう。

資料 就航都市一覧(羽田空港旅客ターミナルHP)

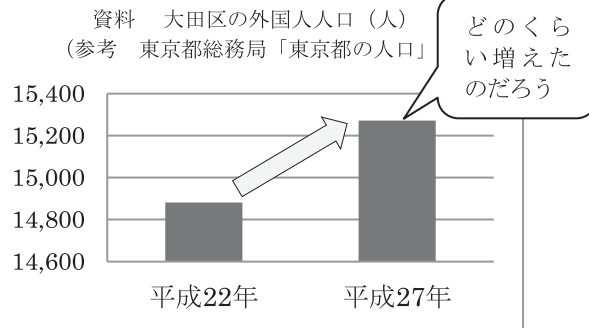


東京都の外国人人口の推移や羽田空港の航空路の広がりに着目する。

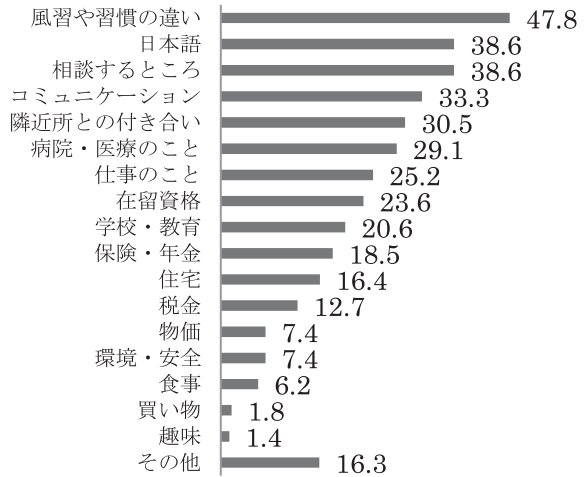


第2・3時の資料(つかむ)

◆ 大田区にはどのくらいの外国人がいるのだろう



資料 外国人が生活で困ることは何だと思いますか。(日本人にアンケート)
参考 平成26年度大田区多文化共生実態調査 %



資料 外国人が参加した防災訓練(大田区HP)



【指導上の留意点】

防災訓練の写真と実態調査の結果から、増える外国人と共に過ごす大田区の人々の取組や気持ちを予想し、学習問題をつくる。

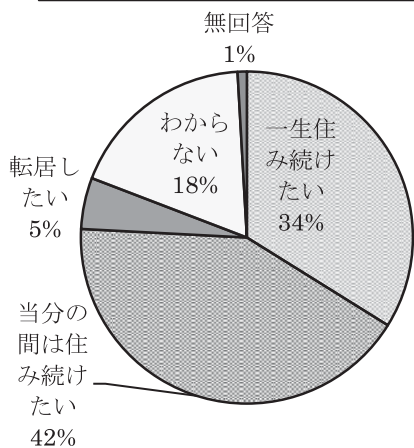
【学習問題】

大田区の人々は、国さい都市をめざして、どのようにまちづくりを進めているのだろう。

第4～8時の資料（調べる）

◆大田区の人々はどのような取組をしているのだろう。平成26年度大田区多文化共生実態調査

資料「大田区に住み続けたいと思いますか。」（外国人にアンケート）



資料「大田区多文化共生実態調査」（外国人にアンケート）

- ・住まいを探したり、住んだ後で困ったことがありますか。（入居を断られる33.5%、保証人が見つからない22.8%）
- ・病院に利用する際に困ったことや不満に思ったことがありますか。（症状を伝えられない22.8%・どの病院に行けばいいのかわからない19.2%）
- ・大田区役所に対してどのようなサービスを望みますか。（子どもの教育支援34.9%、行政情報の多言語33.0%）
- ・地震などの災害が起きた時、あなたは何が心配ですか。
（家族の無事71.1%、避難場所がわからない32.6%）

区役所の人と話だと防災訓練をやることは、国の方針や外国人の希望とも関係があるようだ。

第9時の資料（まとめる）

◆大田区の実践をまとめよう。（新聞づくりのポイント）

資料【OTAふれあいフェスタ（大田区HP）】



【特区民泊の利用】

ホテルだけでは対応できない外国人宿泊客に対し**一般の住宅地**に滞在し、日本の生活や文化をより身近に感じることができる仕組み（大田区が国から特別に認められている。）

A 外国人旅行者への対応

- 大田区・地域住民の取組
- ・特区民泊の利用
- ・大田区ウェルカムショップ

【大田区ウェルカムショップ】

外国人旅行者等の受け入れに積極的又は今後受け入れる意思がある店舗・施設で、区から提供する支援メニューを活用して、外国人旅行者等に接客、サービス提供等を実施する店舗・施設。

【指導上の留意点】

大田区の学習に終わらず、自分たちの住んでいる区市町村と比較しながら、東京都の特色をとらえることができるようにする。

B 在住外国人への対応

- 大田区・国際都市おおた協会の取組
- ・実態調査（※上記資料参照）
- ・「OTAふれあいフェスタ」の開催
- ・防災訓練
- ・各種相談、通訳・翻訳
- ・日本語教室の開催
- ・各国際交流団体の活動支援
- ・来へる大田区大使の指名
- ・「くらしガイド」外国語版の配布

【まとめ】

大田区では、外国人と共に過ごすために、区、NGOやボランティア団体、地域の人が協力して国際交流を進め、国際都市を目指したまちづくりをしている。→大田区は、平成29年3月に「国際都市おおた宣言」をした。

【お願い】大田区への取材集中が予想されるため、「大田区報」やHP等の資料をご活用ください。

